

2 年 表現文化学科

表現文化学科教育課程表(2025年度(令和7年)入学生)																			
区 分		科目	単 位			開 講 時 期						担当教員名	同時授業	卒必	司書	上級 秘書士	上級 秘書士 (メディカル秘書)	備 考	
			授業の方法	必修	選択	1年生			2年生										
						前	通	後	前	通	後								
教養科目	人間と文化	日本文化	講義		2	○						金子未佳		△2		△16	△16	〔教養科目〕 卒業要件:14単位以上(必修含む) 「人間と文化」2単位以上 「人間と社会」必修を含め6単位以上 「生活と科学」2単位以上 「実務と情報」2単位以上 ウィンドアンサンブル入門 (◇年間15回) ●科目 数理・データサイエンスAI教育プログラム 認定申請科目(2科目 4単位)	
		芸術に親しむ	講義		2	○						七字純子/長谷川裕久		△2					
		子どもと読書	講義		2				○			小林和子		△2	○				
		こども未来学	講義		2	○						助川/佐藤/小口/安藤/加茂川/馬立/国府田/白土/森井/八木澤		△2					
		ウィンドアンサンブル入門	演習		1		◇					八木澤香菜		△2					
	人間と社会	日本国憲法	講義		2	○						小口恵巳子		▲4					「実務と情報」2単位以上 「外国語」2単位
		生涯学習概論	講義		2						○	金子未佳		▲4	○				
		女性学	講義		2				○			小林和子/小口恵巳子		▲4					
		女性と社会生活	講義		2	○						辻京子		▲4		△16	△16		
		キャリア形成ゼミⅠ	演習	1			○					表現文化学科教員		○		○	○		
		キャリア形成ゼミⅡ	演習	1							○	表現文化学科教員		○		○	○		
	生活と科学	生活と環境	講義		2	○						佐藤隆		※2					●科目 数理・データサイエンスAI教育プログラム 認定申請科目(2科目 4単位)
		身体のしくみと働き	講義		2				○			安嶋隆		※2			△16		
		●データサイエンス入門	講義		2				○			助川公継		※2					
	実務と情報	●マルチメディア演習	演習		2	○						小松崎浩司		□2		△16	△16		
		プレゼンテーション入門	講義		2				○			塙雅文		□2					
	人間と健康	健康とスポーツ	講義		1			○				野沢恵子							
			実技		1														
		ダンス入門	実技		1	○						国府田はるか							
	外国語	英語Ⅰ-A	演習	1		○						内桶真二		○					
		英語Ⅰ-B	演習	1					○			内桶真二		○					
専門科目	基礎ゼミナール	『読む』ということⅠ	講義	2		○					小林和子		○		△16	△16	〔専門科目〕 卒業要件:48単位以上(必修含む) 【必修】○24単位 【選択】■22単位以上 「文学を学ぶ」 「文化とことば」 「作品を創る」 「表現力を磨く」 「情報社会と表現」 地域文化論(◇年間15回)		
		『読む』ということⅡ	講義	2				○			金子未佳		○						
		『書く』ということⅠ	講義	2		○					小野孝尚		○		△16	△16			
		『書く』ということⅡ	講義	2				○					○						
		『話す聞く』ということ	講義	2		○					金子未佳		○		△16	△16			
	文学を学ぶ	日本語・日本文学の歴史	講義	2					○			小林和子		○					「文化とことば」 「作品を創る」 「表現力を磨く」 「情報社会と表現」
		日本近代文学	講義		2					○		小林和子		■22					
		古典の森へ	講義		2	○						石井純一		■22					
		漢文学	講義		2					○		小野春江	R8(2026):1,2年	■22					
	文化とことば	書物論1/4期	講義		1						○	金子未佳	R8(2026):1,2年	■22	△2				地域文化論(◇年間15回)
		漫画の世界	講義		2					○		横井三步	R8(2026):1,2年	■22					
		地域文化論	講義		2			◇				表現文化学科教員・(塙雅文)		○					
		映像の世界	講義		2							開講せず	R8(2026):1,2年	■22					
	表現を学ぶ	表現入門	講義		2		○					長谷川裕久		○					
		戯曲に親しむ	講義		2					○		長谷川裕久		○					
		身体表現基礎	講義		2					○		平松み紀		○					
	作品を創る	書道Ⅰ	演習		1	○						小野春江		■22					書道Ⅰ選択者
		書道Ⅱ	演習		1					○		小野春江		■22					
		文芸創作(詩歌)	演習		1					○		小野孝尚		■22					
		文芸創作(小説)	演習		1						○	小野孝尚		■22					
		身体表現創作	演習		1					○		長谷川裕久		■22					
	表現力を磨く	日本語表現	講義		2					○		金子未佳		■22		△16		△16	
		プレゼンテーション演習	演習		2						○	吉村風		■22					
		プロジェクト演習	演習		2						○	石井純一		■22		○		△16	
	情報社会と表現	人間関係論	講義		2				○			辻京子	R7(2025):1,2年	■22		△16		△16	
		図書館活動演習	演習		2		◎					小松崎浩司	R7(2025):1,2年	■22	△2	△16		△16	
	表現力集成	言語文化ゼミナールⅠ	演習		1					○		小林和子		◆		△16		△16	【選択必修】2単位 「表現力集成」 ◆2科目または◇2科目いずれか
言語文化ゼミナールⅡ		演習		1						○	小林和子		◆						
身体表現ゼミナールⅠ		演習		1					○		長谷川裕久		◇						
身体表現ゼミナールⅡ		演習		1						○	長谷川裕久		◇						
卒業研究		演習		4						○	小林,金子・長谷川		○						
資格取得		科 目	単 位			開 講 時 期						担当教員名	同時授業		司書	上級 秘書士	上級 秘書士 (メディカル秘書)	備 考	
授業の方法	必修	選択	1年生			2年生													
			前	通	後	前	通	後											
資格取得に関する専門科目	司書に関する科目	図書館概論	講義		2		○					金子未佳			○			必修 ○22単位 選択 △2科目2単位以上 合計24単位以上	
		図書館制度・経営論	講義		2					○		小松崎浩司	R7(2025):1,2年		○				
		図書館情報技術論	講義		2						○	吉村風	R8(2026):1,2年		○				
		図書館サービス概論	講義		2		○					小松崎浩司	R7(2025):1,2年		○				
		情報サービス論	講義		2						○	吉村風	R8(2026):1,2年		○				
		情報サービス演習	演習		2					◎		金子未佳	R7(2025):1,2年		○				
		図書館情報資源概論	講義		2		○					小松崎浩司	R7(2025):1,2年		○				
		情報資源組織論	講義		2						○	吉村風	R8(2026):1,2年		○				
		情報資源組織演習	演習		2					◎		小松崎浩司	R7(2025):1,2年		○				
		図書館基礎特論1/4期	講義		1							○	吉村風	R8(2026):1,2年		△2			
	上級秘書士に関する科目	秘書学概論	講義		2		○					周藤亜矢子				○	○	必修 ○10単位 選択 △16単位以上 合計26単位以上	
		秘書実務	演習		2		◎					周藤亜矢子				○	○		
		事務管理	講義		2					○		周藤亜矢子	R7(2025):1,2年			△16	△16		
		秘書実務演習	演習		2					◎		周藤亜矢子	R7(2025):1,2年			○			
	上級秘書士(メディカル)に関する科目	メディカル秘書概論	講義		2						○	周藤亜矢子	R8(2026):1,2年				○	必修 ○10単位 選択 △単位16以上 合計26単位以上	
		メディカル秘書実務	演習		2						○	周藤亜矢子	R8(2026):1,2年				○		
		診療報酬実務	演習		2						◎	大澤恵美	R8(2026):1,2年				△16		

「地域文化論」→ 時間割上なし(別計画) ◎ → 半期30回開講(週2コマ)

ナンバリング	15211		科目名	生涯学習概論	
担当教員	金子 未佳				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 人々が生涯のいつでも学習機会を選択して学ぶことができる「生涯学習」の本質と意義を理解し、これからの生涯学習社会について考察します。

到達目標 生涯学習の本質と意義を正しく理解し、近隣地域における生涯学習の取り組みを学ぶことで、生涯学習を身近に感じ、今後の人生に役立てることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 生涯学習概論を学ぶということ
- 02 生涯学習とは何か
- 03 生涯にわたる人間形成
- 04 「ライフサイクルゲームⅢ」を活用し、それぞれの生涯設計を考える
- 05 施設に基づいた生涯学習活動(1) 生涯学習施設と社会教育施設、学校と地域との連携、公民館
- 06 小テスト(1)、施設に基づいた生涯学習活動(2)生涯学習推進センター
- 07 施設に基づいた生涯学習活動(3)図書館
- 08 施設に基づいた生涯学習活動(4)博物館、校外学習事前説明
- 09 校外学習 (生涯学習推進センター)
- 10 校外学習 (図書館または博物館または民間の生涯学習施設)
- 11 校外学習ふりかえり、生涯学習講座の企画立案、チラシ作成
- 12 生涯学習講座個別発表・投票、小テスト(2)
- 13 施設に基づいた生涯学習活動(5)青少年教育施設、女性教育施設、体育施設
- 14 生涯学習の現代的課題 まちづくりに対応した生涯学習、文化・芸術活動と生涯学習、安全・安心社会づくりの生涯学習
- 15 民間団体・機関による生涯学習支援 NPOによる生涯学習活動、教育文化産業による生涯学習、小テスト(3)

授業時間	【事前学修】
外の学修	・図書館やインターネット資源を活用するとともに、実際に近くの生涯学習施設を見学し、講座等のイベントへ参加するなど、自主的に活動する。 ・新聞記事や生涯学習関連の資料収集等、個別発表準備をしておく。（約2時間）
	【事後学修】
	・授業で学んだ生涯学習施設について、ウェブサイト等で情報を収集し、最新の事業内容を調べる。 ・友人や家族と、これからの生涯学習社会についてディスカッションし、自分の意見をノートにまとめる。（約2時間）
評価方法	小テスト3回（授業の理解を確認するためのもの）（30%）、課題（提出物・発表・中間レポート）・授業への取り組み（30%）、定期試験（40%）
アクティブ ラーニング	グループワーク、グループディスカッション、クイズ形式授業、校外学習
フィード バック	授業毎の課題に対して個別指導及び全体講評のフィードバックを行います。
実務経験	○ 複数の図書館・博物館での勤務経験から、施設における生涯学習活動について、実例を交えながら分かりやすく解説する。
教科書	香川正弘、鈴木眞理、永井健夫編『よくわかる生涯学習 改訂版（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』（ミネルヴァ書房、2016）
参考書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
備考	校外学習は見学先との日程調整により、実施する回を変更する可能性があります。状況によっては、校外学習を行わずに「生涯学習講座実施（講義型・ワークショップ型）」へ変更します。生涯学習講座を実施する際には、別途、教材費（1人300円程度）を徴収する予定です。 授業内に課した発表や提出物については、個別に助言を行うとともに、全体講評のフィードバックを行います。 授業終了時に、ミニツツペーパーの提出があります。コメントを記して返却します。 グループ活動を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。

ナンバリング	16141		科目名	キャリア形成ゼミ II		
担当教員	表現文化学科教員					
年度	2026		年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年		単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☒ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☒ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 本科目は大きく2つの内容について学びます。
 ①短大で実施される行事に参加することで集団生活の基本を学びます。
 ②短期大学で学んだことは、卒業後の進路だけでなく、日常生活にも大きく影響していきます。連綿と続いていく人生の様相を「キャリア」と言います。自分のキャリアを考えていきます。

到達目標 【学内行事を通して】短大での集団生活の基本が身につきます。
 【キャリア・ガイダンスを通して】自らの学生生活および卒業のキャリアデザインを描けます。

学位授与の方針 【表現文化学科】

- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 新学期オリエンテーション、定期健診、グループ別オリエンテーション
- 02 新入生歓迎会 (学友会主催：全学合同)
- 03 ハローワークガイダンス
- 04 学科別研修会 (全学科合同 劇団四季ミュージカル鑑賞会)
- 05 防火避難訓練 (全学合同)
- 06 ハローワーク相談
- 07 防犯講習会 (全学合同)
- 08 グループ交流会 (全学科合同 宝塚歌劇鑑賞会)
- 09 ハローワーク相談
- 10 撫子祭事前準備 (全学科合同)
- 11 撫子祭
- 12 健康・暮らしのセミナー
- 13 就職セミナー
- 14 就職セミナー

授業時間 【事前学修】

外の学修 キャリアについて考える回および講話等で事前学修を求めることがあります。

【事後学修】

課題を求めることがあります。全体で15時間以上の事後学修時間が必要となります。特に本科目は一人で取り組む独習だけでなく、他の学生・教職員とともに協働して進める課題も多くあります。協働してより互いに効果を得られる学習に努めてください。

全体で15時間以上の授業外学修時間を要します。

評価方法 授業への取り組み、課題への取り組み、振り返りフォーム（100%）

アクティブラーニング ワークショップ、外部講師による講話、セルフプランニング、振り返りフォーム

フィードバック 教員からの口頭および紙面によるフィードバック 対面あるいはオンラインによる面談、相談

実務経験

教科書

参考書

備考

- ・演習科目です。全回出席してください。
- ・やむなく欠席する際は、事前に担当教員に連絡してください。
- ・外部講師講話などは講師の都合によって日時が変更になることがあります。その場合は確定次第授業時間変更の告知を行います。
- ・人の数だけ進路もあります。自身の将来のことで気になることがあったら、どんな小さなことでも担任や学科教員、進路相談室、学生カウンセリング担当者に相談してください。

ナンバリング	14200		科目名	日本近代文学	
担当教員	小林 和子				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 一年次必修の「日本語・日本文学の歴史」の後を受けて、日本近代文学の概略をもう一度詳しく学びます。その後、映像化された日本近代文学の名作を鑑賞し、原作を読んで、原作と比較します。そのことによって、文学と映画との違いや、名作作品の魅力を考える授業です。この授業では、グループに分かれてディスカッションを行い、考察の共有と深化を図ります。なお、扱う作品は履修者の希望も取り入れたいので変わる場合もあります。

到達目標 (1) 近代文学の概要を復習し、幅広い近代文学への基礎知識を身につけることができます。 (2) 日本近代文学の名作を映像をきっかけとして学び、文学作品への幅広い興味を引き出すことができます。 (3) 文学表現と映像表現の違いを理解し、多様な言語表象を分析統合し、総合的に表現する方法の基礎を学び、卒業論文につなげることができるようになります。 (4) 日本文学に関する知識や鑑賞能力を習得することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス及び日本文学の概略の復習、日本近代文学の歴史について
- 02 日本近代文学の歴史ー明治から昭和までー
- 03 日本近代文学史の小テストとまとめ
- 04 黒澤明監督映画「羅生門」と芥川龍之介「藪の中」について
- 05 BUNGOビデオと原作について
- 06 映画「夢十夜」（夏目漱石原作）鑑賞
- 07 原作「夢十夜」について
- 08 森田芳光監督映画「それから」（夏目漱石原作）鑑賞
- 09 原作「それから」について
- 10 宮崎駿監督アニメ映画「風立ちぬ」鑑賞
- 11 堀辰雄「風立ちぬ」について
- 12 映画「ヴィヨンの妻」（太宰治原作）鑑賞

- 13 原作「ヴィヨンの妻」について
- 14 原作と映像化の問題について（多様な言語表象を比較分析する方法を学ぶ）
- 15 近代文学作品の映像化と原作との比較についてのまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 1年次の「日本語・日本文学の歴史」のテキストを復習しておくこと。特に近代について読んでおくこと。映像鑑賞前に必ず原作を読んで感想をまとめておくこと。原作と映像との違いをノート等書きだしておくこと。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

近代文学史の講義後確認テストを行いますので復習が必ず必要です。また、映像を見た後に原作との比較をしてノートなどに記録してレポートに備えます。最低2時間を目安とします。

評価方法 近代文学についての確認テスト(30%)、授業に対する取り組み(40%)、レポート(30%)
授業に対する取り組み：ディスカッション時の発言やリアクションペーパーの内容。レポート：映像作品と原作との比較ができているかどうかなど。

アクティブ ラーニング グループディスカッション、リアクションペーパー

フィードバック 授業毎のリアクションペーパーについて、個別のフィードバックを行います。

実務経験

教科書 なし（プリントを配付する）

参考書 映像に扱う作品（漱石「夢十夜」「それから」、芥川「羅生門」「藪の中」、三島「潮騒」、堀辰雄「風立ちぬ」、太宰「ヴィヨンの妻」など）

備考 グループディスカッションを取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。他の人の意見をよく聴き、自分でしっかり考えて発言することを求めます。

ナンバリング	17200		科目名	漢文学	
担当教員	小野 春江				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 日本は古来中国の文化・思想・漢字等を取り入れ、日本文化の在り方に大きな影響を受け発展してきた。そこで中国文学を代表する漢詩・漢文から読解力や知識を養い、中国思想の「教え」となることを学び、素養をつけることを目的とする。理解度確認のためミニテスト等を行う。

到達目標 漢詩・漢文の基本的読解力を修得することが出来るようになる。白文に返り点と送り仮名がつけることができるようになる。訓点の読む順番を修得できるようになる。又、音読や暗記ができるようになる。中国の歴史や文化について理解することが出来るようになる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 年間講義内容について 漢文を学習するにあたって ノート使用方法について
- 02 漢文の訓読法及び句法について 高校での漢文の復習
- 03 「春暁」孟浩然 (五言絶句)
- 04 「春夜喜雨」杜甫 (五言絶句)
- 05 「静夜詩」李白 (五言絶句)
- 06 「送元二使安西」王維 (七言絶句)
- 07 「早発白帝城」李白 (七言絶句)
- 08 「望廬山瀑布」李白 (七言絶句)
- 09 「黄鶴桜送孟浩然之広陵」(七言絶句)
- 10 「雑詩」王維 (五言絶句)
- 11 「春夜洛城聞笛」李白 (七言絶句)
- 12 「絶句」杜甫 (五言絶句)
- 13 「春望」杜甫 (七言絶句)
- 14 「秋浦の歌」李白 (五言絶句)

授業時間 【事前学修】

外の学修 ノートに漢文を書き写し意味のわからない漢字を漢和辞典で調べる。
作者や時代背景について調べる。

【事後学修】

繰り返し暗唱する。疑問や理解不足等があれば辞典・事典・参考文献等で調べ次回の授業で質問する。
学修目安時間は合わせて4時間とする。

評価方法 定期試験（40％）朗唱（20％）提出物等（20％）授業中の取り組み（20％）を含めて総合的に評価する。

アクティブ
ラーニング 訓読・音読・群読をする。
疑問点・問題点を挙げる。
グループ学習
ノート整理（後日提出）

フィード
バック 質問等に適格に応える。
ノート提出にはコメントを付して返却する。
ミニテスト・答案用紙にはコメントを付して返却する。

実務経験

教科書 プリント使用

参考書 『唐詩選通解』清雅堂 『岩波文庫・唐詩選』 高校で使用の『国語便覧』
『朗唱漢詩漢文』全国漢文教育学会編 東洋館出版社
漢和辞典 『新字源』角川書店

備考

ナンバリング	18212		科目名	書物論1/4期
担当教員	金子 未佳			
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☒ 選択 (司)	

授業概要 書物の歴史を遡り、様々な書物の媒体について理解を深めていきます。
折本や布装本など、いくつかの形態の書物を実際に作ります。
くずし字を読む基礎的技術を身に付けることを目標とします。

到達目標 (1)書物の歴史と形態について学べます。
(2)製本技術が身に付きます。
(3)基礎的なくずし字の読み方を習得します。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、書物史概説（世界）
- 02 書物史概説（日本）、見立番付を読む
- 03 綴本とは、一折中綴じ本を作る
- 04 卷子本とは、卷子本を作る
- 05 折本とは、折本を作る
- 06 美しき装幀の世界、布装本を作る(1)材料選び、表紙作り
- 07 布装本を作る(2)花布、しおり紐を貼る、背を補強する
- 08 布装本を作る(3)表紙と本文を合わせる、見返しを貼る
- 09
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14

授業時間	【事前学修】
外の学修	書物に関する理解を深めるため、授業内で紹介する参考書を読むとともに、できるだけ多くの博物館施設を見学し、古典籍資料を見る機会を作ること。（約1時間）
	【事後学修】
	レジュメや配布資料を見直し、そのなかで興味を持った内容について、図書やインターネット等で調べ、理解を深める。（約1時間）
評価方法	授業の取り組み・提出物（30%）、製作課題（40%）、最終レポート（30%）
アクティブ ラーニング	ミニッツペーパー、グループワーク
フィード バック	ミニッツペーパーへの応答。 製作課題や授業内の取り組みに関する個別助言及び全体講評のフィードバック。
実務経験	
教科書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
参考書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
備考	教材費として1人1,200円を徴収します。 製作課題は個別に助言を行い、全体共有することで、より理解を深めます。 授業終了時にミニッツペーパーの提出があります。コメントを記して返却します。 ある程度手先の器用さが求められます（カッターを使って紙を切る、定規を使ってまっすぐに線を引く、針と糸を使って縫う、など）。 手先が器用な人は周りの進捗状況に配慮し、作業が遅い人の補助に回るように協力してください。 製作工程の都合上、2回の授業を連続で行う場合があります。 各製作課題が授業時間内に完成しない場合（欠席を含む）は、次回までに各自で完成させてください。1つでも未完成の製作課題がある場合は、単位を取得できないことがあります。

ナンバリング	18200		科目名	漫画の世界		
担当教員	横井 三步					
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 漫画の表現技法や産業面での役割について、座学と制作の両面から学びます。

到達目標 1.漫画とデザインに関する基礎的な知識を習得します。
2.感性を言語化し、人に伝える力を養います。
3.様々な作品を楽しむ広い視野を身に付けます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 イン트로ダクション：漫画とはなにか
講座の内容と授業形式の紹介
簡単な課題を通して授業で使うツールを使い方を学ぶ
- 02 イン트로ダクション：漫画とはなにか
〃
- 03 漫画とキャラクター (1)
キャラクターは漫画を語るうえで最も重要な要素であること
キャラクターデザインについて、座学と制作の両面から学ぶ
- 04 漫画とキャラクター (2)
〃
- 05 漫画と視覚表現 (1)
色彩と構図は漫画表現に欠かせないことから、プロの作家がどのような技術を使っているのか、作品研究を通して学ぶ
- 06 漫画と視覚表現 (2)
〃
- 07 漫画と物語表現 (1)
魅力的なストーリーとは何か座学と制作の両面から学ぶ

08 漫画と物語表現 (2)

〃

09 漫画と社会 (1)

漫画はエンターテインメントの面が強調されがちであるが、広告や教育・学習面でも漫画は大きな存在であるため、漫画と社会の繋がりについて学ぶ

10 漫画と社会 (2)

〃

11 漫画と産業 (1)

漫画を含むエンターテインメント分野は、日本の主力産業のひとつであるため、産業という面に注目して漫画について学ぶ

12 漫画と産業 (2)

〃

13 漫画ビブリオバトル (1)

これまでの学習を踏まえてマンガを分析し、受講生自身がオススメする作品についてプレゼンテーションをする

14 漫画ビブリオバトル (2)

〃

15 漫画の世界

授業時間 【事前学修】

外の学修 漫画や漫画原作のアニメ作品に興味を持ち、作品に触れる機会を設けてください。(2時間～)

【事後学修】

ワークシートの復習などで振り返りを行い、学習内容の定着を目指しましょう (1時間～)

学習内容を反映して作品を分析し、レポート執筆を行います (1, 2時間)

評価方法 授業課題のワークシート：60%
最終課題レポート：40%

アクティブ ラーニング googolスプレッドシートを用いて、毎回ミニワークを行います。ミニワークでは自分の考えを言語化する力を養います。

フィードバック ワークシートを確認しながら、その都度フィードバックを行います。
言葉にするのがあまり得意でない方もサポートしますので安心して参加してください。無理なく段階的に取り組めるように進めます。

実務経験 ○ プロのマンガ家として、雑誌や書籍などで20年以上活動してきた現役のクリエイターです。
マンガの他にもイラスト、デザイン制作、アニメ、ゲーム、記事執筆など幅広い分野で活動しています。

教科書 特になし

参考書 特になし

備考 学習進度によって内容が変更になる場合があります。

ナンバリング	14200		科目名	文芸創作（詩歌）		
担当教員	小野 孝尚					
年度	2026		年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☒ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准）	☐ 必修（司） ☐ 必修（上秘） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択必修（幼）	☐ 選択必修（保） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司）	☐ 選択（上秘） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 選択（音療）

授業概要 文芸創作にあたっての基本的なことや基礎を学び、各自がそれぞれに創作することを目的とします。前期は主として、韻文(自叙伝詩、大学行事に於ける句作等)についての基本的なことを学び、郷土の先人の豊かな感性と人間性に溢れた創作作品を体感し、自らの創作活動の糸口とし、糧としたい。

郷土の先人たちの創作作品に触れ、文芸創作を身近に感じ、読解力と郷土愛を深める。

各自それぞれが創作することによって、文章表現（韻文、散文）をするための感性と想像力をみがく。

(1)韻文制作の基本的なことを学び、郷土茨城の代表的な詩人等の作品を鑑賞し、創作の動機、作品の成立背景、感動の中心、読解と分析鑑賞。(2)実際に韻文(自叙伝詩、大学行事に於ける句作等)の創作と相互批評。

到達目標

- ・文芸創作の基本的な情報収集力や構成力を高め自立した人間として社会生活を営むことが出来ます。
- ・郷土の先人たちの創作作品に触れ、文芸創作を身近に感じ、読解力や鑑賞能力が身に付き郷土愛を深めることが出来ます。
- ・各自それぞれが創作することによって、文章表現（韻文、散文）をするための感性と想像力をみがくことが出来、社会人としてのコミュニケーション能力が身に付きます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 韻文の創作に当たって(長塚節の観点から)
(1)感性(2)言語習慣(3)発想・着想
- 02 風土と詩～詩作品に表われた筑波山と霞ヶ浦
(1)寺門仁(2)大手拓次(3)室生犀星
- 03 横瀬夜雨の作品から「神も仏も」「影」「お才」「やれだいこ」
- 04 創作
- 05 創作
- 06 創作・推敲
- 07 清水橋村の作品から「風」「村の鍛冶屋」「柏木」
- 08 清水橋村の作品から「空間」「雲雀」

09	創作
10	創作・推敲
11	野口雨情の作品から 「己の家」「船頭小唄」「十五夜お月さん」
12	野口雨情の作品から 「シャボン玉」「七つの子」「蜀黍畑」
13	創作
14	創作・推敲
15	創作物の整理・まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 創作のための情報の収集と整理。図書館等での調べ学習。課題作文の文案について考える。学修の目安は1時間程度とする。

【事後学修】

課題作文や創作した文章の推敲。文庫本等で名作を読む。
課題図書を読む。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 (1) 授業への取り組み(30%)
(2) 宿題や提出物(30%)
(3) 創作作品(40%)
創作作品の評価については、主題(40%) 構成(30%) 表現(30%)

アクティブラーニング 自伝詩を書くためのエスキース（下絵、デッサン、習作）を行い、そこから推敲を重ねて、韻文作品を制作する。総てに於いて能動的な学習となる。

フィードバック 授業の中で、個別に制作状況を確認しながら質疑応答し、進める。
提出物は、総てコメントを付し返却する。

実務経験

教科書 茨城の近代文学逍遙（小野孝尚著 泊船堂）ISBN978-4-904389-17-1 適宜プリントも使用

参考書 『茨城近代文学選集I～V』（常陽新聞社）星野徹他編 『霞ヶ浦と文学I～III』（常陽新聞新社）小野孝尚編
『茨城の近代詩人上・下』（筑波書林）小野孝尚著 『茨城の近代詩人群像』（茨城新聞社）小野孝尚著
『長塚節文学賞入選作品集』（各年度）

備考 風土を共にする郷土茨城の文学者の作品から、表現方法等を学びながら実際に創作にチャレンジします。
「課題」等が与えられる場合もあります。
質問・要望等については、あらかじめミニットペーパーを配付しておきますので、その都度記入して提出して下さい。返答します。
提出物や創作したものは、全体講評のフィードバックを行います。秀作は、本人により前に出て朗読してもらい相互評価もします。
学生の皆さんの積極的な授業参加を期待します。

ナンバリング	15200		科目名	文芸創作（小説）	
担当教員	小野 孝尚				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☒ 選択（卒） ☐ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘） ☐ 必修（保） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（上秘メ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司）		

授業概要 前期の韻文の創作に続いて、散文を用いてのエッセイや短編小説や自叙伝を創作します。
 散文に於いても、郷土の風土と先人の豊かな感性と人間性に溢れた創作作品を体感し、自らの創作活動の糸口とし、糧としたい。
 (1)散文制作の基本的なことを学び、郷土茨城の代表的な作家の作品を鑑賞し、創作の動機、作品の成立背景、感動の中心、読解と分析鑑賞。(2)実際に私小説の創作と相互批評。

到達目標 文芸創作の基本的な情報収集力や構成力を高め自立した人間として社会生活を営むことが出来ます。
 郷土の先人たちの創作作品に触れ、文芸創作を身近に感じ、読解力や鑑賞能力が身に付き郷土愛を深めることが出来ます。
 各自それぞれが創作することによって、文章表現をするための感性と想像力をみがくことが出来、社会人としてのコミュニケーション能力が身に付きます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 散文の創作に当たって(長塚節の観点から)
1、感性 2、言語習慣 3、発想・着想
- 02 長塚節の作品から 「疵のあと」
- 03 創作
各自が、それぞれのテーマにそって創作活動を行う。
- 04 創作
各自が、それぞれのテーマにそって創作活動を行う。
- 05 創作・推敲
各自が、それぞれのテーマにそって創作活動を行う。
創作した作品について推敲する。
- 06 下村千秋の作品から 「早天実景」「鬼退治」
- 07 創作
各自が、それぞれのテーマにそって創作活動を行う。

08	創作 各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。
09	創作・推敲 各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。 創作した作品について推敲する。
10	上野壮夫の作品から 「故郷の河」 「風・故郷」
11	上野壮夫の作品から 「野火」
12	創作 各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。
13	創作 各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。
14	龍胆寺雄の作品から 「八柱神社の秘仏」
15	創作物の整理・まとめ 自己評価、相互評価。
授業時間	【事前学修】
外の学修	創作のための情報の収集と整理。図書館等での調べ学習。 課題創作のための主題・構成・表現等についての構想。課題図書を読む。
	【事後学修】 課題創作文等の推敲。課題図書並びに名作を文庫本等で読む。 学修の目安は合わせて2時間程度とする。
評価方法	(1) 受講態度(30%) (2) 宿題や提出物(30%) (3) 創作作品(40%) 創作物の評価は、主題(40%) 構成(30%) 表現(30%)
アクティブラーニング	私小説創作のために能動的に「自分史年表」を制作する。 「自分史年表」から一部分を取りあげ、そのことを核として創作する。 個別に質疑応答しながら進める。相互評価。
フィードバック	個別に質疑応答。 提出物は、総てコメントを付し返却する。
実務経験	
教科書	茨城の近代文学逍遥 (小野孝尚著 泊船堂) ISN978-4-904389-17-1 適宜プリントも使用
参考書	『長塚節文学賞入選作品集』常総市教育委員会生涯学習課編 『茨城近代文学選集I～V』(常陽新聞社) 星野徹他編 『霞ヶ浦と文学I～III』(常陽新聞新社) 小野孝尚編 『茨城の近代詩人上・下』(筑波書林) 小野孝尚著 『茨城の近代詩人群像』(茨城新聞社) 小野孝尚著
備考	課題創作文については、個別に添削指導し、相互批評等を行います。 創作提出作品については、返却時に全体講評のフィードバックを行います。秀作は本人により、前に出て朗読してもらいます。学生の皆さんの積極的な授業参加を期待します。

ナンバリング	14200		科目名	身体表現創作	
担当教員	長谷川 裕久				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 言葉や身体を伴った舞台俳優の表現方法を使い、テキストに沿ってドラマを表現する。

到達目標 (1)自らの身体を使ってテキストの内容・テーマを表現できる。
(2)グループディスカッションを通して稽古を行い、会話劇を演じることができる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 シアターゲームをつかった身体のコミュニケーション1 二人でゲーム
- 02 シアターゲームをつかった身体のコミュニケーション2 皆でゲーム
- 03 グループ即興1 ポージングによる集団イメージ
- 04 グループ即興2 人間以外のものになる
- 05 俳優のエチュード1 一言だけの会話
- 06 俳優のエチュード2 指示詞だけの会話
- 07 無言劇を創作し演じる ゲーム「サイレントシチュエーション」を演じる
- 08 ミニマムな演劇を創作し演じる 会話の少ないショートショートを創作する
- 09 動くこと・アクション1 アクションシーンを想定し、演じてみる
- 10 動くこと・アクション2 見えないものを想定したアクション(自転車に乗る、縄跳びをする、一本橋を渡る、など)
- 11 クリエイション1 一人芝居の創作
- 12 クリエイション2 二人芝居の創作
- 13 クリエイション3 三人以上のシーンの創作
- 14 クリエイション4 別々に創作したシーンを構成して一つの作品を創る
- 15 講評 シナリオの修正

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業時間以外でも、継続して身体の訓練を行う。テキストの読みを調べる。音読をする。学修の目安は2時間程度とする。

【事後学修】

創作にあたりその日の決定事項は、次の授業までにきちんと整理しておくこと。劇場や映像資料等で舞台作品に積極的に触れる。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法	授業への取り組み（40％）課題の発表（30％）実技による定期試験（30％）
アクティブ ラーニング	ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティ ブ・セッション 映像活用学習
フィード バック	創作されるシナリオ、その舞台発表について、全体での講評を行う。
実務経験	○ 公共劇場での劇作・演出・俳優の経験を生かして実践的に指導を行う。
教科書	なし
参考書	適時、指定します。
備考	発表に関しては全体講評を授業中に行います。 授業は動きやすい服装で臨むこと。

ナンバリング	14242		科目名	日本語表現	
担当教員	金子 未佳				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 正しく、分かりやすい、簡潔な日本語表現の技術を身に付けるため、「書く」ことを重視した講義と演習を行います。
 投稿文の作成と新聞への投稿を行います。
 敬語の正しい用法を学びます。

到達目標 (1)正確で分かりやすい文章表現力が身に付きます。
 (2)社会人としてふさわしい、正しい敬語表現が身に付きます。
 (3)基礎的な校正記号の使い方を習得できます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- ガイダンス、間違い探し、選抜課題「この授業を受講した理由について」
- 「正しい日本語」とは、「誤りやすい語句」、課題「どうしてもやめられない私の癖」
- 小テスト(1)、「語彙力」を高める、敬語と文末表現を正しく使う
- 小テスト(2)、課題「子どもの頃の思い出」
- 新聞の投稿欄を読む、投稿文の書き方
- 投稿文を書く(1)『茨城新聞』『県民の声』に投稿する
- 校正記号の使い方、校正記号を使って文章を直す(1) (タテ組・基本)
- 投稿文を書く(2)『茨城新聞』『ワイドひろば』(「身近な出来事」)に投稿する
- 校正記号を使って文章を直す(2) (タテ組・実践)
- 投稿文を書く(3)『茨城新聞』『ワイドひろば』(「今月のテーマ」)に投稿する
- 校正記号を使って文章を直す(3) (ヨコ組・基本と実践)
- 課題「卒業後の進路について」
- 手紙の書き方・手紙を書く

- 14 「お薦めの一冊」を書く
- 15 「お薦めの一冊」個別発表・投票・講評

授業時間 【事前学修】

外の学修

- ・新聞や雑誌を読む際、文章表現に注意を払うこと。
- ・新聞に毎日目を通すこと。
- ・課題のテーマを決めておくこと。（2時間）

【事後学修】

- ・授業の内容（敬語表現、校正記号など）を整理し、自分なりに課題を決めて事後学修を行う。
- ・添削された課題を清書し、感想を記入する。（2時間）

評価方法 小テスト2回（授業の理解を確認するためのもの）（20%）、課題（提出物・発表）・授業への取り組み（50%）、定期テスト（30%）

アクティブ
ラーニング ミニッツペーパー、プレゼンテーション

フィード
バック ミニッツペーパーへの応答。
課題の添削や授業の取り組みに関する個別助言及び全体講評。

実務経験

教科書 日本エディタースクール編『校正記号の使い方 第2版 タテ組 ・ヨコ組・欧文組』（日本エディタースクール、2007）
共同通信社編『記者ハンドブック 第14版 新聞用字用語集』（共同通信社、2022）

参考書 なし 授業中に適宜プリントを配布します。

備考 初回の出席者が一定数以上の場合、選抜課題の評価により、受講人数を制限します。
「投稿文」は『茨城新聞』に投稿します。投稿は任意ですが、多数の投稿を望みます。
小テストや授業内の課題に関しては、添削や助言を行い、全体共有することで、より理解を深めます。添削や助言を受けた際には、次の課題で同じ指摘を受けないように注意してください。
「お薦めの一冊」は個別発表・投票を行い、講評します。
課題は締め切り厳守です。提出期限を過ぎた場合、原則添削指導は行いません。
課題の未提出が1回でもあった場合、単位を出さないことがありますので注意してください。

ナンバリング	15200		科目名	プレゼンテーション演習		
担当教員	吉村 風					
年度	2026		年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 プレゼンテーションの意義、目的、内容、すすめ方、ツールの活用などについて学び、特に口頭表現・身体表現を中心に演習を行っていきます。また社会人として身につけていきたい姿勢を学んでいきます。

到達目標 (1)アジェンダセッティングの必要性を理解します。
 (2)ターゲットオーディエンスを意識するようになります。
 (3)ストーリー展開を考えるようになります。
 (4)オンラインプレゼンテーション法ができるようになります。
 (5)プレゼンテーションの集大成として、口頭だけでなくプレゼンテーションソフトとボディランゲージや道具を使った多角的なプレゼンテーションができるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 イントロダクション：本科目の進め方
- 02 プレゼンテーションソフトを用いないプレゼンテーション（多角的なプレゼンテーション）
- 03 効果的なプレゼンテーションソフトの使い方（映像で効果的なプレゼンテーションを観察する）
- 04 アジェンダセッティング、ターゲットオーディエンス、パーソナルスペース
- 05 ストーリー展開を考える。(1)
- 06 ストーリー展開を考える。(2)
- 07 プレゼンテーションにボディランゲージを補助的に使用することの効果を知る。
- 08 プレゼンテーションに道具を補助的に使用することの効果を知る。
- 09 オーディエンスを意識したプレゼンテーション(1)
- 10 オーディエンスを意識したプレゼンテーション(2)
- 11 最終発表準備(1)（プレゼンテーションの集大成）
- 12 最終発表準備(2)（プレゼンテーションの集大成）
- 13 最終発表(1)（プレゼンテーションの集大成）

14 最終発表(2) (プレゼンテーションの集大成)

15 社会人になった際のプレゼンテーションの役割 (プレゼンテーションの集大成)

授業時間 【事前学修】

外の学修 プレゼンテーションのスキルを身につけるためには、「いいプレゼンテーション」を鑑賞することも大事です。

現在ではYouTubeをはじめとした動画配信サイトでも多くのプレゼンテーションがあります。

【事後学修】

演習科目ですので課題を適宜課します。課題を通じて理解を深め、知識や技術を習得してください。

学びは決して一人で行うことだけでなく、履修者同士或いは担当教員に相談、議論、協力し合うことで、獲られるものもあります。互いに理解を深めてください。

本科目を通して復習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ ICTを活用した学習です。自ら考えることを求めます。自ら作業を行ってもらいます。グループでディス
ラーニング カッションを行ってもらいます。履修者全員の前で発表してもらいます。

フィード Microsoft Formsを用いて、授業の振り返りを行います。質問に対する返答は次回の授業開始時に質問者を
バック 伏せたかたちで全体共有または質問者に直接行います。
また、課題に対して個別に助言を行うことで、より理解を深めてもらいます。

実務経験 ○ 国立国会図書館における図書館業務の実務経験を有する教員が、業務におけるプレゼンテーションの企
画・作成・実施について講義します。
効果的なプレゼンテーション手法について学び、演習形式で実践的な指導をします。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 都度授業内で紹介していきます。

備考

ナンバリング	15243		科目名	プロジェクト演習		
担当教員	石井 純一					
年度	2026		年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4		授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☒ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 現実社会の課題解決（プロジェクト）に挑戦します。「学内での座学」と「学外者との対話など」を繰り返すことで、専門的知識や教養、リーダーシップ力を高度に統合しながら、仲間と一緒に課題解決に立ち向かう力を獲得していきます。

到達目標

1. グループワークを行うことでコミュニケーション能力や企画調整力が身に付きます。
2. 茨城の魅力を探究し、外部に発信することで表現力が身に付きます。
3. 自分の在り方・生き方を考える契機になります。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 プロジェクト演習で身に付けてもらいたいこと
- 02 茨城の魅力を探究し、外部に発信することで表現力が身に付きます。
- 03 魅力に関するテーマ設定・グループ分け
- 04 本学図書館等でテーマに沿って調査（１）
- 05 本学図書館等でテーマに沿って調査（２）
- 06 調査したことをまとめる（１）
- 07 調査したことをまとめる（２）
- 08 オンラインによる外部の方との意見交換（１）
- 09 意見交換を受けての調査内容の修正
- 10 オンラインによる外部の方との意見交換（２）
- 11 発表原稿及び発表資料の作成（１）
- 12 発表原稿及び発表資料の作成（２）
- 13 プロジェクト演習発表会予行
- 14 プロジェクト演習発表会（外部の方に見ていただく）

授業時間 【事前学修】

外の学修

- ・パワーポイントを活用した発表になるので、そのスキルを各自で身に付けおきましょう。
 - ・授業以外でもグループで散策することや、調査したりなどフィールドワークを行います。
- その際の視察場所などは、こちらで紹介します。（1時間）

【事後学修】

- ・演習で得たことで疑問に思ったことなどは、本学図書館で司書の先生のレファレンスを受けて調べるようにしてください。調べたことは、次の演習に生かすようにしてください。（1時間）

評価方法

- ・講義への取り組み（グループワークなど） 20%
- ・レポートや課題への取り組み（提出） 30%
- ・プロジェクト演習発表会における発表内容 50%

アクティブ
ラーニング

- ・事前の学修における調査をノートにまとめておく。
- ・講義の中で、様々なグループワーク（討議・発表・説明）を行う。
- ・グループでテーマ設定を行いパワーポイントを用いて発表する。

フィード
バック

- ・演習後に提出してもらうレポート（感想や意見）によって学んだことを定着させます。
- ・提出物については、教員のコメントを記入し返却します。

実務経験

- ・高等学校国語科教師としての経験から「話すこと・聞くこと」の指導を今回の演習に生かします。さらに、教育行政経験から、そこで知己を得た本県の人材を活用することで、受講生に社会性を身に付けてもらいます。

教科書

課題解決力と倫理的思考力が身に付くプロジェクト学習の基本と手法
鈴木敏恵 教育出版

参考書

授業内で指示します。

備考

グループ活動を取り入れた演習となりますので、積極的に参加するには、お互いの意見を尊重しながら聞くということを大事にしてください。そのためには、まず自分の考えを持つこと、相手とどこが同じでどこが異なるのかに注意を払って聞いてください。まずは幼児教育に関する書籍については授業内でも紹介しますが、本学の図書館を訪れ、司書の先生から茨城の魅力に関する書籍についてレファレンスを受けノートにメモしてください。

ナンバリング	14342		科目名	言語文化ゼミナールI		
担当教員	小林 和子					
年度	2026		年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☐ 必修 (卒) ☒ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 言語文化に関してこれまで学んできた方法と知識を実践に活かすため、各自が作家や作品、言語文化的なテーマを見つけて、それについてレジュメを作成し、口頭発表を行います。それに対してクラス全員で質疑を行い、担当教員が講評を行う授業です。なお、授業内容は学生が見つけたテーマによって変わるため過年度のものの一例を挙げておくにとどめます。ゼミナールの主体は学生自身なので毎回ディスカッションを中心に授業を展開します。

到達目標 (1)作家や作品に真摯に向き合うことによって、そこから課題を見つけることができますようになります。(2)作家や作品、言語文化的なテーマについて先行文献を調べ、資料を収集し、まとめることができますようになります。(3)まとめたことを資料化し発表することで、発信力を身につけ、コミュニケーション能力の向上を図ることができますようになります。(4)発表や質疑を通して、自らを見つめ、多様な情報を分析統合し、総合的に表現する能力を身につけることができますようになります。自分が調べ発表したことを発表後フィードバックします。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (ゼミナールとは何かを学ぶ)
- 02 教員による見本演習 (レジュメの作り方、発表の仕方、問題点の見つけ方、質疑応答の仕方などについて学ぶ) 例えば太宰治「葉桜と魔笛」を読む
- 03 課題を見つけるためのグループ・ディスカッションを行う。例えば「葉桜と魔笛」の最後の口笛は誰がふいたと思うか、MHは存在するのか、タイトルの意味は、など
- 04 先行文献の見つけ方を学ぶ (図書館やインターネットによる情報収集の方法、そして注意点などの確認)
- 05 個人発表 (1~2人が発表、例—井伏鱒二「山椒魚」について、梶井基次郎「檸檬」について、金子みすゞの童謡についてなど) —各ゼミ発表の中で到達目標を達成するための助言を行う
- 06 個人発表 (1~2人が発表、以下同様)
担当する学生によってテーマが変わります
- 07 個人発表
- 08 個人発表

- 09 個人発表
- 10 個人発表
- 11 個人発表
- 12 個人発表
- 13 個人発表
- 14 個人発表
- 15 ゼミ発表を通して自らが感じたことを各自がまとめる

授業時間 【事前学修】

外の学修 図書館などで日頃から多くの文学作品を読み、テーマを見つけるために情報収集を心がける。ゼミ発表担当
日一週間前にはテーマを発表し、事前にレジュメを作成し、担当教官の指導を受ける。ゼミ発表担当以外の
場合もその作品を読んだりそのテーマに対して調べ、的確な質問ができるように準備しておく。学修の目安
は1時間程度とする。

【事後学修】

自分の発表した内容とゼミ参加学生や担当教官の意見などをまとめて整理し、レポートにまとめる。学修の
目安は1時間程度とする。

評価方法 発表内容(40%)、発表の仕方(20%)、質問・発話(20%)、小レポート (20%)
発表内容：レジュメの作り方がきちんとできているかどうか。
先行文献をきちんと調べているかどうか。問題点をきちんと見つけられているかどうか。発表の仕方：発声
は適当であるかどうか。質問にきちんと答えているかどうか。進行はきちんとできているかどうか。質問・
発話：他者の発表に対して的確な質問ができているかどうか。発表者の意図を正しく把握しているかどう
か。小レポート：期末に他者の発表についての感想をまとめる。

アクティブ
ラーニング ゼミ発表と質問、グループディスカッション、ソクラテス問答

フィード
バック レジュメの添削、自分の発表および他者の発表へのレポート

実務経験

教科書 なし

参考書 なし（個々のゼミ発表に対して適宜紹介します）

備考 ゼミですので、担当者と参加者が積極的にディスカッションすることが一番大事です。他の人の意見をしっ
かり聞いて、自分の考えをしっかりと発言することを求めます。

ナンバリング	15300		科目名	言語文化ゼミナールII		
担当教員	小林 和子					
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科	
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☐ 必修 (卒) ☒ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 言語文化ゼミナールIで学んだことをもとに作家や作品、もしくは言語文化的テーマを選定し、それについて自身で課題をまとめて口頭発表を行います。このゼミナールは卒業論文作成のための基礎となります。なお、ゼミ発表は参加者によって決まるため、授業内容については過年度のものを一例だけ挙げるのでとどめます。

到達目標 (1)作品と作家について深く理解することができるようになります。(2)分かりやすいレジュメが作成できるようになります。(3)参加者がよく理解できるようなプレゼンテーションの方法を身につけることができるようになります。(4)プレゼンテーションにたいして適切な質問ができます。(5)作品や作家と真摯に向き合うことによって、自らを見つめ、多様な情報を収集、分析、整理し、総合的に表現することができるようになります。(5)卒業発表会に向けて準備します。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
- ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション（レジュメの作り方、発表の仕方などの復習）
- 02 ゼミナール発表と卒業論文作成のための基本を学ぶ（卒論のための中間発表を行う）
- 03 課題のためのグループディスカッション
- 04 先行文献の収集と整理の仕方、引用の仕方、参考文献の書き方、論理のまとめ方を学ぶ（多様な情報を収集、分析、整理し、総合的に表現する方法を復習する）
- 05 個別発表（人数は未定、ただしなるべく90分を一人で使って卒業論文につながるような詳細な発表にしていきたい）例・「井伏鱒二『山椒魚』の改稿について」、「横光利一と花について」、「江戸川乱歩と浅草について」、など）
- 06 個別発表
- 07 個別発表
- 08 個別発表
- 09 個別発表
- 10 個別発表

- 11 個別発表
- 12 個別発表
- 13 個別発表
- 14 卒業発表会の準備
- 15 ゼミ発表のまとめと反省

授業時間 【事前学修】

外の学修 図書館などで多くの作品や資料にあたり、問題点を見つけ、情報を収集し、ノートなどに整理しておくこと。学修の目安は1時間程度とする。

【事後学修】

その作品やテーマについてより多くの資料にあたり、卒業研究につなげられるようにまとめる。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 レジュメと発表の仕方（60%）ゼミでの質疑と発話（40%）

アクティブ ラーニング グループディスカッション、ソクラテス問答

フィードバック ゼミ発表後レジュメの添削や発表内容質疑応答などについて個別にフィードバックを行う

実務経験

教科書 なし

参考書 なし（授業中に適宜紹介する）

備考 ゼミですので、発表者と参加者全員が自分の考えをディスカッションすることが一番大事です。授業内での発表について、その都度、フィードバックを行います。

ナンバリング	14300		科目名	身体表現ゼミナールI	
担当教員	長谷川 裕久				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☒ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 身体表現に関してこれまで学んできたことの実践の場として、観客を想定した舞台作品を創造するのに必要なことを考え学び会得する。そのために『朗読劇』のグループミーティング、クリエイション、発表、ディスカッションを繰り返し行うことでコミュニケーションのスキルアップを目指す。

到達目標 (1)俳優の訓練方法を自分の言葉と身体で実践できるようになる。
(2)朗読劇用のテキストをディスカッションを経て、グループで上演することができるようになる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション 身体表現の歴史と今
- 02 俳優のための身体トレーニング入門1 呼吸法と発声法
- 03 俳優のための身体トレーニング入門2 身体のコントロール
- 04 テキストの選択 (理由と到達目標) 戯曲を読み比べる
- 05 個人練習と個別指導 自分の弱点を自覚する
- 06 弱点を意識し、表現に工夫をする
- 07 ディスカッション1 ほかの人の演技を見て感想を述べる
- 08 他者の感想を参考にして自分の演技に取り入れる
- 09 トレーニングディスカッション2 お互いに演技の演出をつけてみる
- 10 中間発表
- 11 ディスカッション3 演出のよかった点 不明瞭な点 工夫すべき点を話し合う
- 12 演出効果を加えての発表1 音響効果
- 13 演出効果を加えての発表2 小道具 美術
- 14 演出効果を加えての発表3 衣裳
- 15 全体発表にむけてリハーサル 相互評価

授業時間	【事前学修】
外の学修	授業時間以外でも、継続して身体の訓練を行う。テキストの読みを調べる。音読をする。学修の目安は2時間程度とする。
	【事後学修】
	創作にあたりその日の決定事項は、次の授業までにきちんと整理しておくこと。劇場やインターネット、DVD等で積極的に舞台作品にふれること。学修の目安は1時間程度とする。
評価方法	授業への取り組み（40％）課題の発表（40％）実技による定期試験（20％）
アクティブ ラーニング	ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティ ブ・セッション 映像活用学習
フィード バック	課題発表毎に個別のフィードバックを行う。
実務経験	○ 公共劇場での舞台制作・劇作・演出・俳優経験を生かし舞台芸術の歴史・制作過程・ジャンル毎の解説を具体例を踏まえて行う。
教科書	なし
参考書	授業内で発表します。
備考	授業内の発表については、そのつど全体で講評をします。 基本的に授業は動きやすい服装で臨むこと。（ジャージ、シューズ等）

ナンバリング	15300		科目名	身体表現ゼミナールII	
担当教員	長谷川 裕久				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☒ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 前期『身体表現ゼミナールI』で学んできたことを深め、観客を想定した舞台作品を創造する。
『会話劇』上演の為にグループミーティング、クリエイション、発表、ディスカッションを繰り返す行うことでコミュニケーションのスキルアップを目指す。

到達目標 (1)俳優の訓練方法を自分の言葉で解説でき、ナビゲーターとして稽古場で率先できる。
(2)会話劇用のテキストを使って、集団での上演に向けて稽古を計画できる。
(3)俳優として会話劇を演じることができる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション 発表用テキスト候補の選択
- 02 スタッフワークを知る1 照明
- 03 スタッフワークを知る2 音響
- 04 オペレータースタッフを体験する。
- 05 テキストの選定と読み合わせ。
- 06 グループ発表1 演者とスタッフに分かれて舞台を進行する。
- 07 ディスカッション1 演出効果を踏まえて演じやすかった点や、演じづらかった点を話し合う。
- 08 グループ発表2 演者とスタッフを入れ替え、さらに一度目の問題点を考えて短い作品を発表する。
- 09 ディスカッション2 演出効果を踏まえて演じやすかった点や、演じづらかった点を話し合う。その上で最終的な演出プランを立ててみる。
- 10 グループ発表3 最終演出プランに沿って発表する。
- 11 ディスカッション3 最初から改善された点や明確になった点など、表現の創造性について意見を述べ合う。
- 12 演出プランの決定・発表に向けての練習。決定した演出プランに沿っての通し稽古。
- 13 演出プランの変更・発表に向けての練習。実際の発表会場を想定した段取りを正確に確認する。

14 通し稽古（発表に向けての全体稽古）相互評価

15 ゲネプロ（発表に向けて本番通る行う最終稽古）講評

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業時間以外でも、継続して身体の実践を行う。テキストの読みを調べる。音読をする。学修の目安は2時間程度とする。

【事後学修】

創作にあたりその日の決定事項は、次の授業までにきちんと整理しておくこと。劇場やインターネット、DVD等で積極的に舞台作品にふれること。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み（40%）課題の発表（40%）レポート（20%）

レポート評価基準

1 内容がテーマに即している（50%）

2 論理的に分かりやすく展開されている（40%）

3 誤字脱字がなく正確である（10%）

アクティブ ラーニング ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティブ・セッション 映像活用学習

フィードバック 課題の発表毎に個別のフィードバックを行う。

実務経験 ○ 公共劇場での劇作・演出・俳優の経験を生かして実践的に指導を行う。

教科書 なし

参考書 授業内で発表します。

備考 授業内の発表に関してはそのつど全体講評を行います。
基本的に授業は動きやすい服装で臨むこと。（ジャージ、シューズ等）

ナンバリング	16100		科目名	卒業研究
担当教員	小林和子/金子未佳			
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科 ☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4	授業方法 ☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)	

授業概要 テーマ決定についてアドバイスをを行い、情報検索のしかた、論文や研究書の選び方、具体的な学術的文章の書き方などについて指導します。話し合いと進捗状況の報告により、卒業論文を完成させます。個々のテーマは個人のもので、資料収集や入力作業などクラス全体で協力し合って完成させます。最後に完成した卒業論文を卒業研究発表会で口頭で発表します。

到達目標 自ら課題を設定し、深く調べて答えにたどり着くという作業を通して、課題探求能力を育むことができます。幅広く参考文献を調べる方法を身に付けるため、本学の図書館だけでなく地域の図書館や国会図書館や学術情報サービスなどを利用する方法も身に付けることができます。学術的な文章を書く方法、論文の基本的な構成などを身に付けます。確かな日本語で自らの考えを表現する能力を養うことができます。卒論制作過程において中間発表、仮提出などを通じて学生自身が調査や資料収集や文章を見直しフィードバックを大切にしていきます。パソコンなどの正しい情報収集方法を身に付け、キーボード入力に慣れることができます。2年間表現文化学科で学んできた日本語、日本文学などの学びを集大成することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、今後の具体的な取り組み方と流れについて説明する。
- 02 個人卒業論文面接指導(1)テーマを選ぶための話し合いを行い、図書館で幅広い資料にあたる。
- 03 個人卒業論文面接指導(2)作家と作品の問題点、仮の題目を決定する。
- 04 個人卒業論文面接指導(3)テーマ決定の報告とそのための具体的な取り組み方について話し合う。
- 05 個人卒業論文面接指導(4)資料収集を開始する。インターネット検索の利用について解説を聞き、実践する。
- 06 個人卒業論文面接指導(5)資料収集を続ける。大学図書館及び県立図書館などを利用する。
- 07 個人卒業論文面接指導(6)資料収集を続ける。論文や雑誌記事などを収集する。
- 08 個人卒業論文面接指導(7)収集した資料の整理と分析を行う。
- 09 個人卒業論文面接指導(8)これまでの進捗に関する中間報告を行う。さらに収集した資料のリストを作成する。
- 10 個人卒業論文面接指導(9)大体の見通しにより章立てを作成する。
- 11 個人卒業論文面接指導(10)仮の章立てを提出し、今後の進め方について指導する。

- 12 個人卒業論文面接指導(11)執筆を開始する。「はじめに」の執筆を行う。
- 13 個人卒業論文面接指導(12)「はじめに」の執筆指導続き。正しい日本語表現に特に注意して執筆する。
- 14 個人卒業論文面接指導(13)「はじめに」の執筆完成。教員による指導と手直しを行う。
- 15 個人卒業論文面接指導(14)第一章の執筆開始。先行文献の引用の仕方を復習する。
- 16 個人卒業論文面接指導(15)第一章の執筆指導続き。原稿用紙の正しい使い方を心がける。
- 17 個人卒業論文面接指導(16)第一章の執筆完成。教員による指導と手直しを行う。
- 18 個人卒業論文面接指導(17)第二章の執筆開始。引用文献と自身の意見との相違を明示するよう注意する。
- 19 個人卒業論文面接指導(18)第二章の執筆続き。教員による指導と手直しを行う。
- 20 個人卒業論文面接指導(19)第二章の執筆完成。教員による指導と書き直しを行う。
- 21 個人卒業論文面接指導(20)第二章を完成させる。
- 22 個人卒業論文面接指導(21)第三章の執筆開始。推敲を重ねる。
- 23 個人卒業論文面接指導(22)第三章の執筆続き。教員による指導と手直しを行う。
- 24 個人卒業論文面接指導(23)第三章の執筆完成。教員による指導と書き直しを行う。
- 25 個人卒業論文面接指導(24)「おわりに」の執筆開始。
- 26 個人卒業論文面接指導(25)「おわりに」の完成。教員による指導と書き直しを行う。
- 27 個人卒業論文面接指導(26)引用文献及び参考文献リストを作成する。
- 28 卒業論文の仮提出を行う。教員による指導を受ける。
- 29 教員の指導により全体の修正を行う。
- 30 卒業論文の仕上げと提出。誤字脱字がないか、表記のミスや引用のミスがないかといった体裁を確認する。卒業研究発表会を実施する。

授業時間 【事前学修】

外の学修 常に課題への問題意識を持ち、日常で触れる物事や本などからヒントを得て欲しいと思います。テーマとそれに関する幅広い資料にあたることを望みます。論理的な文章を書くことができるよう、普段から本や新聞をじっくり読むことを勧めます。毎回2時間を目安とします。

【事後学修】

卒業発表会に向けて卒論の内容を短くまとめ資料を作成する。2時間を目安とします。

評価方法 卒業論文への取り組み(40%)、卒業論文(60%)
 評価基準：的確な先行文献を見つけて引用できているかどうか。論文としての体裁をきちんと守っているかどうか。文章がきちんと書けているかどうか。自分の意見を確立できているかどうかなど。

アクティブラーニング グループディスカッション、対象とする作品やテーマに関係ある場所に行き、研究テーマを深める。

フィードバック 中間発表、卒業研究発表会を行い講評を受けます

実務経験

教科書 なし

参考書 個別の研究テーマに関する研究書などを適時紹介する。

備考 卒論制作過程の中で指導者と学生はディスカッションしながら完成の道を探ります。その中でテーマによってはフィールドワークを課す場合もあります。作成過程の中でその都度フィードバックを行います。半期15回の指導教官との相談を行う。

ナンバリング	16100		科目名	卒業研究	
担当教員	長谷川 裕久				
年度	2026	年次	☐ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)	☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療)	

授業概要 俳優として舞台作品の創作をします。身体訓練の基礎から応用までを学び、稽古・演習の創造過程を体験し、舞台作品を発表します。

到達目標 (1)戯曲を読解して、自主的な演技プランを立てることができます。
(2)総合芸術である演劇作品をの様々な演出要素（衣裳、照明、音響、等）を自ら考え、スタッフワークとして実行することができます。
(3)舞台作品を、自分の役割を認識しディスカッションを通して他者と一致協力して創造することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、発表本番までの取り組み方と流れについて説明する。
- 02 身体の訓練1 緊張と弛緩
- 03 身体の訓練2 呼吸法
- 04 身体の訓練3 発声法
- 05 身体の訓練4 立つ・座る・歩く
- 06 身体の訓練5 様々な歩く
- 07 身体の訓練6 ストップモーション
- 08 身体の訓練7 スローモーション
- 09 身体の訓練8 スケッチと ポージング
- 10 戯曲のプレゼンテーションと選定
- 11 戯曲についてのディスカッション
- 12 本読み1 役替わりで読む
- 13 本読み2 (仮) キャスティングでの読み合わせ
- 14 本読み3 最終キャストでの読み合わせ
- 15 部分稽古1 稽古予定立案

16	部分稽古2	パート分割	大道具プラン立案
17	部分稽古3	音響プランの立案	
18	部分稽古4	小道具プランの立案	
19	部分稽古5	音響プラン立案	小道具プラン立 衣装・メイクプラン立案
20	部分稽古6	音響プラン修正	小道具プラン修正 衣装・メイクプラン修正
21	通し稽古1	演出プランの確認	
22	通し稽古2	戯曲の流れを読む	
23	通し稽古3	緩急を考える	
24	通し稽古4	台本のブラッシュアップ	
25	抜き稽古	問題点のクリア	
26	場当たり稽古	演出プラン総確認	
27	ドレスリハーサル	衣装・メイクを付けて	
28	ゲネラルプローベ	最終稽古	
29	成果発表		
30	まとめ	互評・講評	レポート制作

授業時間 【事前学修】

外の学修 自主稽古の計画を立て、身体・発声の訓練を継続して行うこと。
台詞の暗記・演技プラン立てなど個人で可能な練習は全員が揃う稽古場外で行うこと。
学修の目安は2時間程度とする。

【事後学修】

授業で練習した箇所を反復練習し、テキストをよく読んで台詞（自分・相手役）を暗記すること。学修の目安は2時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み(60%) 課題の発表(40%)

アクティブ ラーニング ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティブ・セッション 映像活用学習

フィードバック 課題の発表毎に個別のフィードバックを行う。

実務経験 ○ 公共劇場での劇作・演出・俳優の経験を踏まえて具体例を示しながら実践的に指導を行う。

教科書 指定しない。

参考書 戯曲、演技理論書などを用意します。

備考 授業内の発表に関してはそのつど講評を行います。
成果発表の直前は連日稽古になる予定です。
動きやすい服装を用意すること。

ナンバリング	17211		科目名	図書館情報技術論	
担当教員	吉村 風				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 図書や雑誌等は「情報」が集められた「資源」、「情報資源」と呼びます。また、インターネット上を駆け巡る「文字」、「音声」、「画像」も「情報」であり、それらをまとめたポータルサイトやデータベースも「情報資源」と呼べます。

図書館は「図書」を集めて提供する「館」から「情報資源」を集めたり整理して、使いやすいかたちで提供する仕組みにシフトしています。

図書館員も「情報資源」を自在に操れる「インフォプロ」にシフトしています。

本科目では特に電子的な「情報資源」にアクセスし操ることができるようになることを学びます。

到達目標 図書館員として求められるICTスキルの基礎が身につきます。

図書館員として利用者の求めに応じたICT支援スキルの基礎が身につきます。

図書館員やインフォプロとして求められるスキルを認める「検索技術者検定3級」を受験できるレベルの知識が身につきます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 第1章 コンピュータの基礎
- 02 第2章 ネットワークの基礎
- 03 第3章 情報技術と社会・法律
- 04 第4章 データベースの仕組み
- 05 第5章 サーチエンジンの仕組み
- 06 第6章 コンピュータシステムの管理とセキュリティ
- 07 第7章 図書館の業務とICT
- 08 第8章 図書館と電子資料
- 09 第9章 デジタルアーカイブ
- 10 第10章 情報検索の理論と方法

- 11 演習(1)
 - ・インタープリタ言語に触れる。
- 12 演習(2)
 - ・ファイルの圧縮を体験する。
 - ・TCP/IPを体験する。
- 13 演習(3)
 - ・ICタグを体験する。
- 14 演習(4)
 - ・デジタルアーカイブを体験する。
 - ・演算子を用いた検索を体験する。
- 15 まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 次回学ぶ単元について、それに合わせて事前学修するよう努めてください。事前学修することで理解度合いが著しく変化します。毎回2時間程度必要です。

【事後学修】

授業では各章の一部のみトピックス的に取り上げていきます。しかし、教科書内に書かれている内容は全て学んだものとします。(試験範囲にもなります)
事後学修でしっかり学んでください。毎回2時間程度必要です。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ
ラーニング 振り返りフォーム

フィード
バック 授業終了後記入する振り返りフォームに対して、全体共有が必要なものは次回授業開始時に口頭で、個別に回答が必要なものは個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館にて図書・雑誌などの資料の収集・保存・活用に携わった経験を有する教員が、図書館情報資源の種類や特性について講義します。各種電子資料やデジタルアーカイブを含む多様な情報資源への理解を深めます。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 授業のときに紹介します。

備考 後半はコンピュータ演習室で前中盤で実際に学んだ技術に実際に触れます。その際ノートPC (Windows / Mac / Chromebook) をお持ちの方は自分のデバイスで学ぶことで自宅でも復習することが可能です。ぜひインターネットに接続できる状態でお持ちください。

ナンバリング	18211		科目名	情報サービス論		
担当教員	吉村 風					
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 図書館における情報サービス（レファレンスサービス、情報検索サービス）について学ぶことで、図書館の主要業務のひとつである情報サービス全般の概念について理解していきます。

到達目標

1. 図書館における情報サービスの意義を理解できます。
2. 司書として身につけるべき最低ラインのレファレンスサービス、情報検索サービス、図書館利用教育、発信型情報サービス等の情報サービス概要を理解できます。
3. 司書が利用者に情報サービスを提供する上で最低限求められる参考図書・データベース等の図書館情報資源について適切なものを選択できます。
4. グループで課題を解決していく癖をつけることで、司書として仕事に就いた時、調査困難なレファレンス課題に対しても協働して対処できるようになります。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 イントロダクション：図書館における情報サービスとは？（図書館における情報サービスの意義）
- 02 第1章 情報サービスとは何か
 - 1 情報社会と情報サービス
 - 2 情報サービスの種類
- 03 第2章 レファレンスサービスの理論と実際
 - 1 レファレンスサービスの原則
 - 2 レファレンス・プロセス
- 04 第3章 情報検索サービスの基礎
 - 1 データベース検索の方法
 - 2 論理演算子を使った検索
 - 3 検索語
- 05 第4章 主なレファレンスツールとその特質（1）書誌データ
 - 1 参考図書、レファレンスツールとは
 - 2 参考図書資料の種類
 - 3 書誌と目録

- 06 第5章 主なレファレンスツールとその特質 (2) 事実データ
 - 1 百科事典を引く
 - 2 言語辞書を引く
 - 3 人物情報を探す
- 07 第6章 インターネット情報の検索
 - 1 検索エンジンの種類
 - 2 論理演算子を用いた検索
 - 3 検索の費用負担
- 08 第7章 書誌作成と発信型情報サービス
- 09 第8章 図書館利用者教育と今後の図書館職員の役割
 - 1 情報リテラシー
 - 2 これからの情報サービスと図書館員
- 10 第4章の演習 (1)
 - ・参考図書を用いて調べる
- 11 第4章の演習 (2)
 - ・書誌と目録
- 12 第5章の演習 (1)
 - ・辞事典を用いて調べる
- 13 第5章の演習 (2) (Web (オープンソース) を用いて)
 - ・人物情報について調べる
 - ・e-Stat、地方自治体のオープンデータを用いて調べる
- 14 第5章の演習 (3)
 - ・地理、歴史情報について調べる
- 15 第6章の演習
 - ・論理演算子を用いた検索を中心に

授業時間 【事前学修】

外の学修 図書館員として働く上で、必要最低限のスキルを付けていく科目です。次回学ぶ単位について、それに合わせて事前学修するよう努めてください。事前学修することで理解度合いが著しく変化します。毎回2時間程度事前学修が必要です。

【事後学修】

テキスト

授業では大枠を学びます。実際に力をつけるには、図書館やコンピュータを活用して調べたり、実際に触ったりすることで学修できます。それらも含めて試験範囲としますので、毎回2時間程度事後学修が学習が必要です。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ ラーニング 振り返りフォーム、クレイジー8、ICTの活用、自ら学外の図書館へ出向いての学習、問題作成

フィードバック 振り返りフォームについては毎回終了時記入してもらいます。全体共有が必要なものは次回の冒頭に、個別に伝えるべきものは個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館におけるレファレンス等の実務経験を有する教員が、図書館情報サービスの基本的な考え方と実践方法を教授します。利用者支援を通じて、課題解決に資するサービス提供のあり方を学びます。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 都度授業内で紹介していきます。

ナンバリング	17211		科目名	情報資源組織論	
担当教員	吉村 風				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 図書館のテクニカルサービスの中で主要なサービスである「情報資源の組織化」について理論と技術の双方からアプローチすることで理解していきます。

- 到達目標
- (1) 情報資源の組織化の概念を理解できます。
 - (2) 書誌に関する概念を理解できます。
 - (3) 目録法の概念とNCR2018の基本的なルールを理解できます。
 - (4) 主題および件名標目の概念とシソーラスやBSH4の基本的な構造を理解できます。
 - (5) 分類法の概念とNDC10の基本的な構造を理解できます。
 - (6) 書誌情報および書誌ユーティリティのしくみを理解できます。
 - (7) 一般図書以外の資料の組織化について理解できます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 情報資源組織化と検索法
・既知検索（ネーム検索）と未知検索（テーマ検索）
書誌コントロール
- 02 目録法総論
- 03 目録規則
- 04 和資料記入の作成(1)
・記述総則および図書の記述
- 05 和資料記入の作成(2)
・アクセス・ポイント（標目）
- 06 主題目録法
- 07 分類配架
- 08 日本十進分類法（Nippon Decimal Classification : NDC）
第1 次区分表（類目表）
第2 次区分表（綱目表）

- 09 日本十進分類法 (Nippon Decimal Classification : NDC)
第3 次区分表・分類表
- 10 「図書記号」法
- 11 書架での配列 (配架)
- 12 書誌ネットワーク
- 13 書誌データ・所蔵データの登録
- 14 目録の維持、管理
- 15 まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業を受ける際、初出の専門用語が多く出てくる科目です。そのため次回講義する章を一読して、解らない用語については『図書館情報学用語辞典』等を図書館やWebで閲覧して事前学修してください。毎回2時間程度要します。

【事後学修】

覚える分量が多い科目ですので、図書館やWebを活用して復習をしっかりと行うようにしてください。毎回2時間程度要します。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ
ラーニング 振り返りフォーム、調査学習

フィード
バック 授業終了後記入するリアクションフォームに対して、全体共有が必要なものは次回授業開始時に口頭で、個別に回答が必要なものは個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館において資料整理・目録作成業務に携わった実務経験を有する教員が、図書館における情報資源組織化の理論と実践的方法を指導します。書誌データや分類・件名付与に関する知識を修得し、情報資源を適切に提供するための能力を養います。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 1. 日本目録規則 2018年版, 日本図書館協会, (2018) (Web版あり)
2. 日本十進分類法 新訂10版, 日本図書館協会, (2015)
3. 基本件名標目表 第4版, 日本図書館協会, (1999)
4. 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編, 図書館情報学用語辞典 第5版, 丸善出版, (2020) (Web版あり)
その他授業内で適宜紹介していきます。図書のみでなく、Webサイト等インターネット上の資料も紹介しますので各自ダウンロードやブックマークを行ってください。

備考

ナンバリング	18212		科目名	図書館基礎特論1/4期	
担当教員	吉村 風				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☒ 選択 (司)		

授業概要 パスファインダー (pathfinder) は、元々道 (path) を見つけ出し (find) ながら切り拓く人 (-er)「開拓者」、「先駆者」という意味があります。

図書館におけるパスファインダーも情報を取り扱うプロ (インフォプロ) である図書館員が、利用者が「〇〇について知りたい」と思った時に先回りし、道しるべとなるような情報をリーフレットにまとめておくことで、調べやすくするアシスタントとなる道具 (ツール) です。

本科目では、実際に図書館で利用者に提供可能なレベルのパスファインダーを作り上げることを目指します。(第1回から第4回までは毎週、第5回から第8回は2～3週間スパンで授業を進めます。)

到達目標 図書館で利用者に提供されるクオリティのパスファインダーが作れるようになります。

パスファインダー作成を通して、「情報を求めている人のために調べる」、「理解しやすいかたちで人に伝える」、「調査に有効な資料に素早くアクセスできるノウハウを身につける」ことができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 第Ⅰ部 図書館パスファインダー
- 02 第Ⅱ部 主題分析の応用
- 03 第Ⅲ部 進化する主題検索ツール
- 04 実際に作成するパスファインダーの題材を考える。(実地見学)
- 05 実際に作成するパスファインダーの題材を考える。(図書館での調査)
- 06 パスファインダーの発表 (第1回)
※発表後、フィードバックを踏まえて修正 (宿題)
- 07 パスファインダーの発表 (第2回)
※発表後、フィードバックを踏まえて修正 (宿題)
- 08 パスファインダーの発表 (最終発表)
※発表後、フィードバックを踏まえて修正後提出 (最終成果物)
- 09

10
11
12
13
14
15

授業時間 【事前学修】

外の学修 教科書に時間を割くことよりも実際に作成するために時間を割きます。そのため前半は次回学ぶ「部」の事前学習を行うようにしてください。毎回2時間程度要します。

【事後学修】

特に後半は、授業では概要を学び実際に資料を作成するのは授業外学習時間となります。それを怠ると最終成果物が作成できず、評価外となってしまいます。大変ですが進めるようにしてください。
毎回2時間程度要します。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ
ラーニング プロジェクト・ベースド・ラーニング、振り返りフォーム

フィード
バック 毎回振り返りフォームを取ります。次の回の冒頭で共有すべき内容については全体フィードバックします。
個別に返すべき内容については個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館における実務経験を有する教員が、現代の図書館と地域資料を取り巻く諸課題について講義します。また、学芸員資格を有し、博物館・資料館等の展示協力を携わった経験を踏まえ、他機関との比較や具体的事例を通じて、図書館を含めた社会教育機関の役割や現代的課題について理解を深めます。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 各図書館で用意されている「パスファインダー」が最も役に立つ参考書となります。図書館に足を運んだり、Webサイトでパスファインダーを手に入れて学習するようにしてください。

備考 教科書代のほか、調査のために1回現地見学、数回図書館に行くための交通費や文献複写代（実費）がかかります。

10
11
12
13
14
15

授業時間 【事前学修】

外の学修 教科書に時間を割くことよりも実際に作成するために時間を割きます。そのため前半は次回学ぶ「部」の事前学習を行うようにしてください。毎回2時間程度要します。

【事後学修】

特に後半は、授業では概要を学び実際に資料を作成するのは授業外学習時間となります。それを怠ると最終成果物が作成できず、評価外となってしまいます。大変ですが進めるようにしてください。
毎回2時間程度要します。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ
ラーニング プロジェクト・ベースド・ラーニング、振り返りフォーム

フィード
バック 毎回振り返りフォームを取ります。次の回の冒頭で共有すべき内容については全体フィードバックします。
個別に返すべき内容については個別にフィードバックします。

実務経験

教科書 講義内で都度配布する

参考書 各図書館で用意されている「パスファインダー」が最も役に立つ参考書となります。図書館に足を運んだり、Webサイトでパスファインダーを手に入れて学習するようにしてください。

備考 教科書代のほか、調査のために1回現地見学、数回図書館に行くための交通費や文献複写代（実費）がかかります。

ナンバリング	18231		科目名	メディカル秘書概論		
担当教員	周藤 亜矢子					
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☒ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 上級秘書士（メディカル秘書）の必修科目である。メディカル秘書の専門的で実践的な基礎知識とスキルを身につけるための学習プログラムである。ねらいは次の3点
 (1)メディカル秘書の役割・業務内容を学ぶ
 (2)医療基本用語を理解できる
 (3)医療制度を理解できる

到達目標 (1)医療機関における組織を理解し、メディカル秘書業務の役割と業務内容を説明できる
 (2)医療基本用語を理解し説明できる
 (3)医療における制度を理解し説明できる

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 講義概説・評価説明
- 02 医療とは
- 03 医療機関の組織 グループワーク
- 04 医療機関の経営 グループワーク
- 05 医療界の現状
- 06 医療保険制度
- 07 医療制度の特徴
- 08 医療秘書の役割と機能
- 09 医療秘書に求められている能力
- 10 病院、診療所での医療秘書
- 11 医療秘書の業務 情報管理
- 12 医療秘書に求められるコミュニケーション (1) 傾聴
グループワーク

- 13 医療秘書に求められるコミュニケーション（２）話す
グループワーク
- 14 医療秘書の将来
- 15 医療秘書に求められる資質のまとめ

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- (1)事前課題（毎回2時間）
 - (2)調査レポート（7.5時間）
 - (3)単元小テストのための学習（7.5時間）

【事後学修】

- (1)授業毎の復習（毎回1時間）
-

評価方法 小テスト（50％）、レポート（25％）、ミニッツペーパーを含む授業への取り組み（25％）

アクティブ
ラーニング シンク・ペア・シェア方式、ミニッツペーパー、ブレイン・ストーミング、復習テスト

フィード
バック 授業内レポートについて個別フィードバック、小テストでの全体講評を行う

実務経験 ○ 企業での秘書業務の経験から、組織の機能・働き方を講義する

教科書 『改訂 医療秘書』医療秘書教育全国協議会編、建帛社、2021年、ISBN 978-4-7679-3737-3

参考書 なし

備考 レポートの評価基準。

1. 字数や提出期限を守ることができている（10％）
2. 誤字脱字がなく、表現が適切である。（10％）
3. 内容が適切である。（30％）
4. 論理的な展開である。（20％）
5. 考察が十分である。（30％）

ナンバリング	18231		科目名	メディカル秘書実務		
担当教員	周藤 亜矢子					
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☒ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 上級秘書士（メディカル秘書）の必修科目である。医療現場における対応能力を身につける学習プログラムである。ねらいは3点
 (1)医療秘書の実践の側面を細分化し、医療現場に則したスキルを習得できる
 (2)専門職としての実務スキルを学び、演習を通して理解を深め実践につなげる
 (3)患者やその家族の気持ちを理解できる

到達目標 (1)医療現場の秘書業務を理解し実践できる
 (2)医療現場のさまざまなケースを想定でき、実践できる
 (3)患者やその家族の気持ちを理解し、行動できる

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 講義概説・評価説明
- 02 医療スタッフとしてのサービスマインド
- 03 医療機関での就業マナー
- 04 接遇（来客対応）ロールプレイ
- 05 接遇（患者対応）ロールプレイ
- 06 電話対応（基本）
- 07 電話対応（患者・医師）
- 08 文書処理（一般文書）
- 09 文書処理（医療関係文書）
- 10 情報の管理
- 11 スケジュール管理
- 12 出張
- 13 慶弔・贈答

14 研究の補助業務

15 総合演習

授業時間 【事前学修】

外の学修 ロールプレイ準備を含む事前課題（毎回2時間）

【事後学修】

(1)ロールプレイの振り返り（毎回1時間）

(2)授業の復習と小テストの振り返り（毎回1時間）

評価方法 小テスト（50%）、ミニツッペーパーを含む授業への取り組み（30%）、レポート（20%）

アクティブ ラーニング グループディスカッション、実技、ケース学習

フィードバック 演習について、全体講評のフィードバックを行う。小テストについて、全体講評と解説を行う

実務経験 ○ 企業での秘書業務の経験を活かし、組織における秘書実務について実践的な授業を行う

教科書 『現代医療秘書ワークブック』、中村健壽[監修]、西文社、2019年、ISBN978-4-904540-16-9
適宜資料を配布する

参考書 『改訂 医療秘書』、医療秘書教育全国協議会編、建帛社、2017年、ISBN978-4-7679-3729-8（医療秘書
概論で使用）
『改訂 現代医療秘書一役割と実務』中村健壽[監修]、西文社、2018年、ISBN978-4-904540-34-3

備考

ナンバリング	18232		科目名	診療報酬実務
担当教員	大澤 恵美			
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科 ☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法 ☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼)	☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 選択 (司)

授業概要 メディカル秘書の知識を身につけ、医療機関全体の組織や業務形態、社会保障制度、医療保険制度の基本と実践を学ぶことができます。

到達目標 (1) 社会保障制度、医療保険制度について理解し、説明することができます。
(2) 診療報酬に必要な基礎知識を理解し、一連の業務知識を身につけ説明することができます。

学位授与の方針 【表現文化学科】
☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション
- 02 医療機関の種類と組織について
- 03 医事課と医療事務について
- 04 医事課の窓口業務について・演習
- 05 個人情報保護法について
- 06 インフォームド・コンセントとクリニカルパスとは
- 07 医療保険制度について(基礎1)
- 08 医療保険制度について(基礎2)
- 09 公費負担医療制度について
- 10 療養担当規則について
- 11 外来業務・新患受付とは
- 12 新患受付演習
- 13 再来受付について
- 14 再来受付演習
- 15 まとめ
- 16 入退院業務(入院編)
- 17 入退院業務(退院編)

- 18 診療報酬算定方式
- 19 診療費の単価
- 20 診療報酬の算定と請求について(1)
- 21 診療報酬の算定と請求について(2)
- 22 カルテの読み方(患者情報)
- 23 カルテの読み方(病名情報、診療内容)
- 24 カルテの読み方(入院診療内容)
- 25 レセプト作成演習(1)外来
- 26 レセプト作成演習(2)外来
- 27 レセプト作成演習(3)外来
- 28 レセプト作成演習(1)入院
- 29 レセプト作成演習(2)入院
- 30 まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業範囲のテキストを読み、医療専門用語などについて意味を調べ理解しておいてください。(約2時間)

【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めノートにまとめてください。(約2時間)

評価方法 定期試験(40%)、小テスト・提出物(40%)、授業への取り組み(20%)

アクティブ
ラーニング

フィード
バック 提出物については、コメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 総合病院で勤務している実務経験を活かし医療機関全体の組織や業務形態等について実践的な授業を行う。

教科書 最新医療事務入門 2024 木津正昭 医学通信社
978-4-87058-934-6

参考書 なし

備考